

農水省産地パワーアップ事業 3事業61億円分採択

2017年3月10日

農業の競争力向上を支援する農林水産省の「産地パワーアップ事業」で、ＪＡおとふけの大豆の乾燥調製貯蔵施設など管内３事業、61億円の施設整備が事業採択された。うち27億円が国庫補助される。

産地パワーアップ事業

十勝関係分／十勝総合振興局まとめ

内容	①市町村	②事業主体
③事業費	④国の補助	
大豆の乾燥調製施設建設		
①音更町	②ＪＡおとふけ	
③36億2950万円		
④16億6350万円		
ジャガイモの集出荷貯蔵施設		
①足寄町		
②北海道ちぬやファーム		
③17億4899万円		
④7億5186万円		
ジャガイモの集出荷貯蔵施設		
①浦幌町	②ＪＡうらほろ	
③7億3566万円		
④3億3166万円		

3町でイモ、豆施設

ＪＡおとふけは町新通北１の農産センターに、大豆の選別、乾燥調製施設を建設する。事業費は36億2950万円で、補助額は16億6350万円。２月にも同事業で大豆貯蔵庫の建設が採択されており、合計の事業費は57億円、うち26億円の補助が決まった。国産大豆の需要拡大などで町内では大豆の作付け面積が増えており、新施設で増産に対応する。2019年３月末に完成の見通し。

冷凍食品製造販売の味のちぬや（香川）の子会社、北海道ちぬやファーム（足寄）は、町郊南地区にジャガイモの集出荷貯蔵施設を建設する。延べ約５９００平方メートルの施設で、貯蔵量は約6000トン。事業費は17億4899万円、補助額は７億5186万円。８月に着工し、来年２月の完成を目指す。

ＪＡうらほろは、町西町の同ＪＡ西町事務所の敷地内に、種子ジャガイモの集出荷貯蔵施設を建設する。事業費は７億3566万円、補助額は３億3166万円。

産地パワーアップ事業は、環太平洋連携協定（ＴＰＰ）の国内対策として創設された。地域が連携して収益向上に取り組む場合に施設整備費などを支援する。管内事業の採択は今年度３回目、ＪＡなどによる７市町、計11施設の計画が承認された。合計の事業費は168億6399万円、国の補助額は76億3666万円に上る。

2016年度農水省補助 十勝85億円

2017年4月16日

農水省の主な農業整備事業の採択実績

十勝分（十勝総合振興局まとめ） 額は万円

	地区数	事業費	国の補助
強い農業づくり交付金	2	3億3600	1億0400
産地パワーアップ事業	11	132億4300	59億7300
畜産クラスター事業	12	63億0400	23億9100

十勝総合振興局は、2016年度に管内で採択された国の農業関係補助事業（整備事業）をまとめた。農作物の集出荷貯蔵施設や牛舎の建設など計198億8000万円の事業に対し、約85億円の国費補助が決まった。

集計対象は、どれも農林水産省の「強い農業づくり交付金」「産地パワーアップ事業」「畜産クラスター事業」の主要３事業。環太平洋連携協定（ＴＰＰ）の国内対策などで、農業の競争力向上を支援する目的で設けられた。

強い農業づくり交付金は、音更町内のラクレットチーズ加工処理施設など管内２町２地区の事業が採択された。産地パワーアップは、ＪＡ帯広かわにしの種子ジャガイモや豆類の集出荷貯蔵施設、ＪＡおとふけの大豆乾

燥調製貯蔵施設、ＪＡ豊頃町の小麦乾燥調製貯蔵施設など７市町11地区の事業への補助が決まった。

産地パワーアップ全道の３分の１

畜産クラスターは上士幌や鹿追、芽室、陸別など10町村12地区の牛舎や搾乳ロボット、ＴＭＲセンターといった施設整備に予算が付いた。管内農業団体や法人の積極的な投資意欲を反映し、産地パワーアップでは地区数、金額ともに全道の３分の１を占めた。

今年度の当初予算では、産地パワーアップや畜産クラスターなどの事業は計上されておらず、農業生産基盤を強化する事業の行方は不透明。同振興局産業振興部は「労働力が減る中でＴＭＲセンターやロボット搾乳などで省力化を進める方向にある。十勝農業の体質強化に向けて、引き続き事業化を要望していきたい」としている。